

在来種を追いやってしまおう外来植物

最近、テレビなどで外来生物が取り上げられ、その影響について知る機会があります。外来生物には、よく話題となるは虫類やほ乳類、魚類など外来動物だけでなく、外来植物も多く存在し、外来動物と同様に日本の自然環境に様々な悪影響を及ぼしています。その悪影響とはどんなものでしょうか。そして、私たちは外来植物に対してどのように対応すればいいのでしょうか

外来植物による悪影響

外来生物とは、人の影響によって本来の生息地からもととは生息していなかった地域に入り込んだ生き物のことです。海外から来たものと、在来種が日本国内の他地域に持ち込まれたもの(国内外来生物)があり、今号では海外から来た外来植物について紹介します。

外来植物による問題は広い範囲にわたり、大きくは次の3つに分けられます。

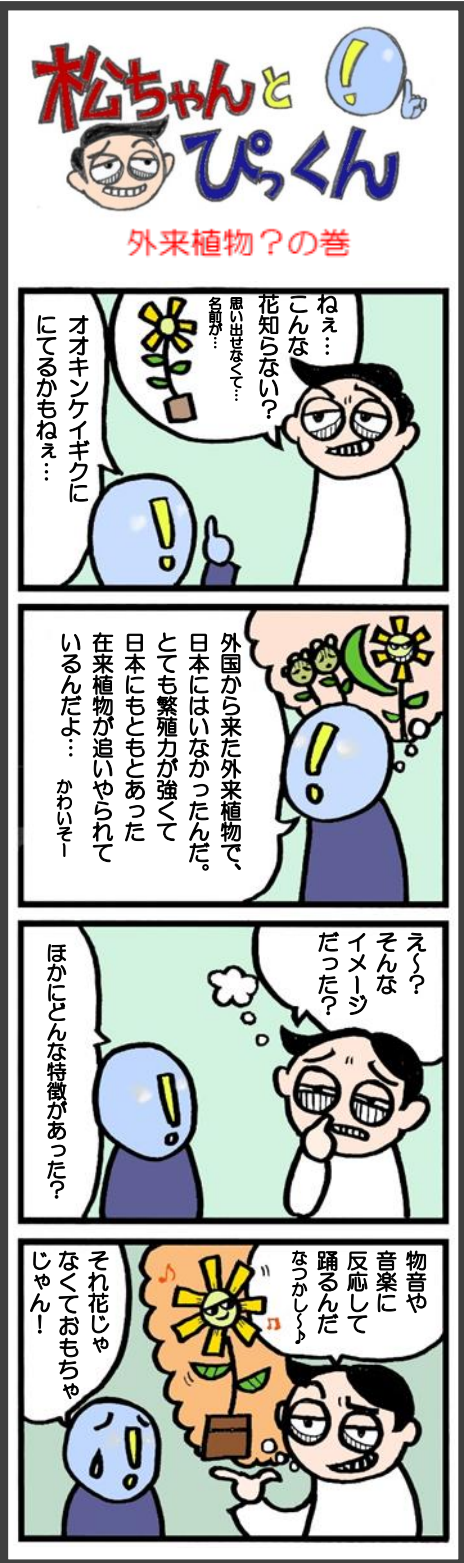
- ① **生態系への影響**・繁殖力が強く、在来種の住みかを奪い、在来種が数を減らしたり、在来種と交雑して遺伝的な独自性を失わせたりしてその地域の生態系を乱します。(例：オオキンケイギクなど)
 - ② **人体への影響**・花粉症の原因となる、毒を持つなどの理由で人体への影響を及ぼします。(例：ブタクサなど)
 - ③ **農作物への影響**・農地に侵入し農作物の生長の阻害や、除草コストの増加による耕作放棄など農業に影響を及ぼします。(例：アレチウリなど)
- セイタカアワダチソウは、この中でも特に地域の生態系へ大きな影響を与えています。



(山梨県提供) (九州地方環境事務所提供) (国立環境研究所提供)



▲セイタカアワダチソウ (越前町提供)



外来植物はどうして入ってきたのか

- ① **人が緑化・鑑賞用に意図的に導入した** 道路や河川の緑化のため、繁殖力が強い植物を導入しました(オオキンケイギクやシロツメクサなど)。園芸・鑑賞用に輸入したのもあります(セイタカアワダチソウやランタナなど)。
- ② **貿易品や服などに付着・混合して非意図的に入ってきた** アレチウリはカナダからの輸入大豆に紛れて入ってきたのが最初とされています。また、種子などが服や靴、荷物に付着したまま人が移動したり、開発の際、種子を含んだ土を移動したりすることで広がることもあります。

外来植物の問題は人間の問題

人間の問題

悪い面ばかり話題になり、嫌われることが多い外来植物ですが、もともとは別の場所が生息していました。人間の都合で運ばれてきて、知らない土地で懸命に生きていくだけなのです。外来植物被害の問題は私たち人間が引き起こした人間の問題です。私たちが自分たちの行動を見つめなおし、外来植物について理解してこの問題を解決できたらいいですね。



▲導入後定着したシロツメクサ (水前寺江津湖サービスセンター提供)



▲園芸用に輸入されたランタナ (国立環境研究所提供)